

京都教育大学附属京都小中学校

(様式4-2: 令和2年度 モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称: 京都再発見 私たちから発信しよう ～公共交通とまちづくりの関連を通して～					
2. テーマ: 未来の京都の姿について、「公共交通と街づくり」の視点から描く					
3. 実施教科: 総合的な学習の時間					
4. 関連単元: 算数数学「割合」「グラフの活用」社会「地域の暮らし」					
5. 実施単元数: 30時間					
6. 学年	5学年	7. クラス数	3クラス	8. 生徒数	95名
9. 実施内容					
<p>(1) 最初に、今年度の総合的な学習の時間の全体計画を教師側から提案し、ワールドカフェスタイルで、学びを深めたい内容を出し合った。</p> <p>(2) 上記を踏まえた上で、興味関心分野を焦点化し、似通った課題設定同士で3～4人のグループを30作った。そして、さらに詳細なテーマを決めて、探究活動を行う。</p> <p>(3) 各グループで、大テーマを「京都再発見」とし、京都の現状と課題について出し合い、議論する中で、研究の方向性や詳細な研究テーマの策定を行った。</p> <p>(4) コロナ禍で、公共機関(京都市交通局)等へ調査活動に出かけることは難しい面もあったが、長期休みも活用しながら、各グループで各区図書館や京都市科学館、そして民間の自動車会社等にも調査活動に出かけ、インタビューも交えながら資料の収集を行った。</p> <p>(5) 調査活動中間期には、JICA職員を2名招聘し、世界から見た京都(日本)というテーマで講演頂き、新たな視点の提供を受けた。</p> <p>(6) 研究テーマに沿って、仮説を立て、資料の収集、分析、そして考察を行っていったが、研究方法の部分で幾つかの壁にぶつかった。そこで、佛教大学から講師を招聘し、京都の交通問題と絡めながら環境問題について講演を1時間、その後各グループの課題に照らして指導助言を頂いた。この活動で、京都の観光や交通に対する専門的な知見を深めることができた。</p> <p>(7) 調べた内容を、パソコンを活用し(壁新聞形式を含む)まとめ、テーマに沿って、学年全体を前にプレゼンテーションを行い、DVD化した(添付の通り)</p>					

10. 学習のながれ：

- ・ 9に記載したような流れで、年間30時間を前期15、後期15に分割し行った。3クラス95名を研究テーマに即し分割し、3名の教員で指導を行った。
- ・ 調査活動は、夏の長期休みを活用し、各グループで行った。
- ・ JICA 職員による講演は、学年全体を対象に、9月に実施した。
(詳細に関しては、添付資料①を参照)
- ・ 研究の中間発表を10月中旬に実施し、それを録画したものを、外部講師に提供した上で、教員側に対する指導助言を11月前半に受けた。そして、そのことを踏まえて、各グループの指導を行っていった。
- ・ 外部講師（佛教大学林准教授）による講演は11月に実施した。
(講演時の写真は、添付資料②を参照)
- ・ 最終発表（プレゼンテーション）は、2月後半に実施。
(全30グループの発表に関しては、添付DVDを参照)

成果として、

- ・ 世界的な観光都市として、グローバルな視点で街づくりを考えることができた。また、グローバルスタンダードが叫ばれる中、それを生徒は実体験できたのではないかと考える。
- ・ 歴史的な都市として、過去から未来への変遷を知ることができ、これまでの人々の知恵を活かした新しい街づくりへつなげることができた。
- ・ 京都への愛着を深めるとともに、創造力を高めることができた。
- ・ 全生徒がプレゼンテーションの経験をするを通し、京都の良さを発信できるとともに、生徒の表現力を伸ばすことができた。またそれは、プレゼンテーション能力など中学校で重要視される力の礎となった。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。